令和7年度 社会教育委員の会議（第1回） 議事要旨

◇日 時

令和7年5月27日(火) 午後7時～午後8時45分

◇会 場

生涯学習センター 2階 学習室2

◇出席者

【委員】小田委員長、鎌田委員、小澤委員、中島委員、市川委員、山内委員、原委員、古地委員、吉川委員、渡辺委員

【行政】風間教育長、勝又鈴木図書館長

【事務局】古谷生涯学習課長、勝俣主幹、高橋係長、小林主査

◇会議次第及び内容（○は委員の発言）

1 開 会 （事務局）

2 委員委嘱及び任命

すべての委員に委嘱状及び任命書を交付。

新規委員の代表者に教育長より交付し、その他の委員については机上配布した。

3 教育長あいさつ

風間教育長挨拶

社会教育は教育行政において大変広い範囲をカバーする分野だと捉えている。また、その役割は日ごとに大きくなっているものではないかと感じている。

子どもたちの教育をみても、学校教育でカバーできる範囲は本当に限られており、地域の方々といった大人や子供も一緒になることで、子どもが教育されていくと改めて思っている次第。

地域を大事にするということを考えてみても、地域の活動に参加していくという活動を用意していくのが必要だと思っている次第。

さらには、提言書の中にも書かれていたが、これら地域の活動を充実させていくためにもその媒体となるつなぎ役になる人が必要である。現在、教育委員会の方では、教育振興計画の策定を進めているが、その中でも、新しい集団のリーダーが、その役割を担えないかということが一つの論点になっているところである。それらの実情を考えた上で、今日集まりの委員の皆さまには、社会教育をいかに発展させるかという点でお力をお借りできるとありがたい。

4 委員及び職員紹介（自己紹介）

委員及び職員の自己紹介

5 社会教育関係施策概要説明 資料1 資料2 資料3

・令和7年度生涯学習課・鈴木図書館施策概要

生涯学習課長より

生涯学習課の年間計画表及び教育振興計画をもとに、寿大学、教養講座、市町對抗駅伝、わたしの主張、はたちの会、定期街頭補導、すそのん寺子屋等主な事業

を中心に説明。スポーツ施設の指定管理者の変更を報告。

鈴木図書館長より

図書館の目標や実施計画等を説明。市民から親しまれる図書館に向け、市民参加型の事業や資料の整理を継続実施。読書を通じた家庭教育の充実を図るための取り組みを進めるほか、幼稚園保育園や学校との連携している。また、特色ある特別展示も実施。東西公民館についても事業計画を説明。学習機会の充実、地域活動の支援をすすめていく。

(教育長、鈴木図書館長はここで退席)

6 委員交流

全員でトークフォークダンスを体験し意見交換。

7 協議事項

(1) 正副委員長選出について

正副委員長については、裾野市社会教育委員条例第6条に「委員は、委員会を構成し、互選により委員長及び副委員長を定める」とされている。

小田圭介委員の委員長への立候補があり承認される。

副委員長選出については、事務局案（杉山委員）を提案し承認される。

委員長（小田 圭介 委員）

副委員長（杉山 善彦 委員）

(以降の協議事項は委員長が進行)

(2) 令和6年度事業実績及び令和7年度事業計画について

事務局より説明

令和6年度社会教育委員会活動実績と東部地区・県等で実施した会議・研修会等の事業実績について報告。併せて令和7年度の事業計画について説明。

質疑等

○なし

(3) 社会教育振興事業費補助金の交付について

事務局より説明

社会教育法第13条において、社会教育団体へ補助金を交付する場合には、社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならないとされているため、令和6年度実績と令和7年度計画について説明。

○委員長

新任委員の方もいるので改めて話をさせていただくが、市の補助金はガイドラインが定められたことにより、事業費の2分の1を補助金、残りは自主財源で運用するようになってしまった。参加費を自主財源に充てようにも体調不良等によるキャンセルは想定され、リスクが高い実情がある。そのため、差額を工面できない社会教育団体は補助金を申請しなくなった状況にある。

市からは受益者負担という話がでるが、社会教育における受益者は誰なのか見直してもらいたい。社会教育による受益者は参加者ではなく、社会全体である。無関心の方たちがその中で培われた広いネットワークの恩恵を受けること

ができるために税金を投入してきたのではないか。今後も、裾野市の社会教育または地域づくり界限に対し、市の補助金ガイドラインが適正かどうか、常に課題提起していきたい。

(4) 今期の協議内容について

社会教育委員について 資料 4

事務局より説明

社会教育法、裾野市社会教育委員条例、裾野市社会教育委員会議規則等を説明。今期協議内容を検討するため、社会教育過去の提言内容や、社会教育に関する研修を実施する予定の旨説明し了承される。

質疑等

○委員長

社会教育員は合議体ではない。必ず合議で話をしていくものではない。

独任制のため、みなさん社会教育員として一人でも対応することは可能。

○合議体でないということは誰が責任をとるものなのか。まとめる人が委員長なのではないのか。

○委員長 委員ごと権利と責任がある。県も社会教育委員は独任制である。

・生涯学習課

個々で話したいということであれば、生涯学習課を通じて教育委員会と調整していくことになると思われる。ただ、あくまで社会教育に関する助言。意見を上げるか取り上げないかは別の話だと思ってもらいたい。

8 報告事項

・各種委員会委員選出について

事務局より報告

鈴木図書館協議会委員 高島 夏樹委員を選出

東西公民館運営審議会委員 山内 和夫委員を選出

裾野市民生委員推薦会委員 吉川 洋美委員を選出

裾野市社会福祉協議会評議員 小田圭介委員長を選出

裾野市社会福祉協議会評議員は社会教育委員長のあて職。他の委員は報告締切りの都合上、本人の内諾を得て選出させていただいた。

9 その他

・6/13 静岡県社会教育委員連絡協議会総会全体研修会について

・6/20 社会教育基礎研修（東部）について

研修日程等を説明

・メールの利用について

委員の連絡先メールアドレスの登録について依頼

・次回の開催日について

事務局より報告

7月8日（水）19:00～ 生涯学習センター 2階 学習室2 において開催

10. 閉 会